

コーディネーターだより

令和4年10月19日

No.2 コーディネーター

今回は、本校のセンター的機能による支援状況について報告します。



本校の支援状況（R3年度）

（のべ件数）

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計 (前年比)
巡回相談	0	26	109	56	0	33	34	30	32	0	24	6	350 (+138)
教育相談	2	2	3	19	0	2	26	11	1	5	0	1	72 (+22)
研修事業	0	5	0	6	0	0	0	0	0	4	0	0	15 (+14)
啓発事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他：地域連携	0	4	3	1	2	6	2	7	1	2	3	1	32 (+11)

小中学校等への支援機能実施状況 市別内訳（のべ件数）

巡回相談 校種別支援状況

市名	巡回相談	教育相談	研修	啓発	地域連携
久喜	87 (24.9%)	28	5	0	9
幸手	32 (9.1%)	19	3	0	5
白岡	120 (34.3%)	20	4	0	5
加須	109 (31.1%)	5	3	0	9
他	2 (0.6%)	0	0	0	4

校種	のべ件数 (%)
幼保	86 (24.6%)
小学校	185 (52.9%)
中学校	37 (10.6%)
高等学校	12 (3.4%)
学童	28 (8.0%)
その他	2 (0.5%)

○巡回相談について・・・

令和3年度は巡回相談としてのべ350ケースに対応しました。市別内訳では、白岡市と加須市が3割ずつ、久喜市が2割強を占めました。また依頼は、1学期と秋頃に集中していました。これは、年度当初の市教委や行政担当課へ巡回相談の周知を行った成果で、年度の早い段階で具体的な支援を検討して支援の必要な子ども達に対応していきたいと考える園や学校のニーズと合致した結果であると思っています。秋頃の依頼については、次年度に向けて就学支援に関する相談がニーズとしては多かったです。

以上のように各市や学校種によって、特別支援教育への理解や推進状況は異なります。今後も地域の担当課や市教委、各園や学校と密にやりとりをし、地域のニーズを把握してそれに応じた対応をしていきたいと思っています。また、各学校園の主体的課題解決力や校内支援体制の構築を促していくためには、継続した介入の中で協働した相談対応が必要不可欠です。今年度は、事後相談（一定期間経過したら連絡をし、相談後の支援状況を確認します。必要に応じて再度巡回します。）にも力を入れていきたいと思っています。

夏休み中の地域連携について

今年度も夏休み中に本校のセンター的機能を発揮して様々な地域連携に取り組んできましたのでご報告いたします。

○第2回コーディネーター研究協議会(7/27)

当日は学区内小・中学校の特別支援教育コーディネーターの先生方16名にご参加いただきました。協議会では、本校進路指導主事より「久喜特別支援学校の進路指導について」、白岡分校準備室より「久喜特別支援学校白岡分校について」情報提供した後、小グループに分かれて協議を行いました。第1回に引き続き、支援が必要な児童生徒について、校内で取り組んでいる実態把握の方法や情報共有について実践交流を行いました。その中で校内の特別支援教育を推進していく上での課題点やその改善策について活発な意見交流が行われました。第1回に引き続き参加して下さったコーディネーターの先生方も多くいらっしゃり、地域の先生方の関心の高さがうかがえました。「意見交流を行う中で新たな体制への考えや気づきにつながった」「組織全体でどう取り組んでいくべきか参考になった」「小学校と中学校の連携を深めていくことが大切であると感じた」などの感想をいただきました。



○特別支援教育研修会(8/9)

本校と騎西特別支援学校との共催で特別支援教育研修会をオンライン形式で実施しました。今年度は、久喜市教育委員会・加須市教育委員会の後援のもと、学区域内の支援機関職員の方々41団体の参加があり、両特別支援学校教員も一緒に研修をしました。今年度は、埼玉県立大学保健医療学部准教授 森正樹先生を講師にお招きし「障害のある子どもの家族と支援者の信頼関係～架空事例から学ぶ着眼点と心構え～」をテーマに御講演いただきました。

参加者からは「架空の話ではありましたが、実際に起こり得そうな内容に基づき、分かりやすく解説していただきありがたかったです。」「私たちの想像力とコミュニケーション力を高めていく必要があると強く感じました。」などの感想があげられ、新学期からすぐに活かせるより実践的な研修となりました。



○ボランティア養成講座(8/23、25)



コロナウイルス感染症の流行により実に3年振りの開催となりました。今年度は現在既に本校の教育活動でお世話になっているボランティアさんを含め、のべ22名の方に御参加いただきました。1日目は、「知的障害の特性とかわり方」について講義と疑似体験を行いました。本校の児童生徒の特性について知り、どんなかわり方をするとよいのか参加者全員で確認することができました。2日目は、1日目の内容を踏まえ、実際に学校の中で起こりやすい場面を想定しての演習を行いました。ボランティアさん役と児童生徒役に分かれてのペアワークを通して基本的なかわり方について理解を深めました。最後に「本校の地域とのつながり」について情報提供をしました。参加者の方々からは、「概念と支援、実践の両面から具体的な演習を通して学ぶことができとても役立った」「学校は子どもたちの可能性を引き出す手助けとして重要な役割があると認識した」「センター的機能があることを初めて知った。地域の子どものためにも、もう少しアピールをするとよいのではないか」などの感想をいただきました。今後も連携を深めていきたいと思っております。